Case Study

OSSIX® Plus

垂直破折とそれに続発した感染への治療

Dr. Matthew J Fien, DDS, FL, USA

datumdental

症例背景

46歳の女性、既往歴に特記事項なし。左側上顔面腫脹の評価と治療のため紹介された。口腔内診査にて中等度の腫脹と13番の頬側歯肉縁より３ミリの位置に瘻孔を認めた。X線写真では、破折とそれに続く13番の感染の結果として重度の骨欠損を認めた。抜歯および全層歯肉弁の剥離後、すべての肉芽性組織は欠損部から綿密に除去された。欠損部に凍結乾燥移植骨を移植し、OSSIX®Plus メンブレンを頬側歯列ラインに適合させ、骨膜縫合で固定した。

術前

術前頬側観

術前のX線

手術時

全層歯肉弁剥離

抜歯および肉芽組織掻爬

吸収性縫合糸によるメンブレン固定

術後2～４週間のフォローアップ

術後2週間での治癒の咬合面観は、切開線での軟組織裂開を認めるが感染の徴候はない

術後4週間の咬合面観では、移植片/メンブレンのほぼ完全な治癒が認められる

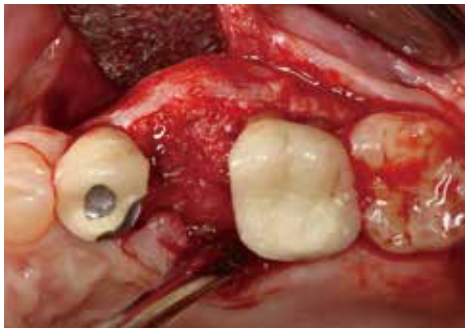
適応症と禁忌の詳細については、OSSIX Plus 使用説明書を参照してください。

術後４ヶ月間のフォローアップ

4か月後に完全回復した。以前の感染部分での顎堤辺縁の大幅な増加に注目する

術後4ヵ月のX線写真では、完全な欠損充填と骨移植片の良好な取り込みを認める。抜歯時に重度の裂開欠損が存在したにもかかわらず、歯槽堤の垂直高さが維持されていることに注目する

術後５ヶ月でのインプラント埋入



インプラント埋入時の再生した顎堤の咬合面観

インプラント埋入時の再生した顎堤の頬側面観。治癒した顎堤を保護するOSSIX Plusメンブレンの遺残が見られる

初回のインプラント窩の形成およびガイドピン配置後のインプラント埋入時の咬合面観。歯槽の境界を超えた顎堤幅の顕著な増加に注目する

インプラント埋入後の頬側面観。再生した骨におけるヘリンボン柄の刻印と頬側の咬合平面の再建に注目する

垂直破折とそれに続発した感染への治療

OSSIX®Plusは、骨再生誘導法（GBR）＆歯周組織再生誘導法（GTR）のための唯一の骨化コラーゲンバリア膜です

OSSIX Plusのサイズは３種類です

OSSIX Plusは現在全世界の多くの国々で利用可能です：アメリカ、ヨーロッパ、アルゼンチン、カナダ、チリ、コロンビア、ドミニカ共和国、香港、インド、イスラエル、韓国、メキシコ、ロシア、シンガポール、タイ、台湾

datumdental

www.ossixdental.com

©2018 Datum Dental、Ltd.無断複写・転載を禁じます。 Datum Dentalのロゴ、GLYMATRIX、およびOSSIXは商標または登録商標です。 Datum Dental Ltd、Datum Biotech Ltd、それらの子会社、および/または米国および/またはその他の国の関連会社の商標。 すべてその他の会社名または製品名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

MKT-0073-03